

「対話的な学び」の視点の充実に向けて

下都賀教育事務所学校支援課

小学校では今年度から、中学校では来年度から新学習指導要領が全面実施となり、どのように学ぶかということにおいては、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められております。今般の新型コロナウイルスの感染症対策等により、活動に制限のある中、特に「対話的な学び」の視点の充実に向けて、「どのようなことができそうか」「どのようなことを大切にしていくとよいか」など、ポイントをまとめてみました。各教科編も併せてお読みいただき参考としてください。



感染症対策を講じながら、「対話的な学び」の実現に向けて、どのような工夫ができそうかな。



マスクの着用で、子どもたちの表情が分かりにくいわ。私たちの表情も伝わりにくいわ。



こういう状況下だからこそ、「しっかり聞いているよ」という姿勢を私たちが示して、子どもたちの安心感を高めたいな。受容的な雰囲気づくりのためにも、私たちが聞き方のモデルを示すことで、子どもたち一人一人が上手な聞き方を意識し、実践できるようにしていこう。

《 教師の受容的な姿勢 → 子どもたちの安心感や聞き方のモデルへ 》

- (例) ○子どもたちの発言をうなずきながら最後までしっかり聞こう。
- ・大きなうなずきや相づち等、リアクションを大切に。
 - 発言の正誤のみにこだわらず、発想や着眼点等を称賛しよう。
 - ・「友達の意見から、新たな考えを見付けることができたね。すばらしいな。」
 - ・「なるほど、そういう見方もできるね。いい考えだね。」 など
 - 「待つ」ゆとりを大切にしよう。
 - ペアやグループになることが難しい状況を踏まえ、全体の話合いでは、教師がコーディネーターとなり、子どもたちの発言をつないでいこう。
 - ・「○○さんの話は、～ということかな。」
 - 「○○さんの考えについてみんなはどう考えるかな。」 など
- (子どもの表情を捉え、つぶやきを生かして。)

参考：R2下地区学校教育の重点「学習指導（言語活動の充実を図るために）」

これまでの学習を踏まえて、対話による学び合い等は計画的に取り入れるなど、指導計画の見直しも必要ね。活動について考える前に、「対話的な学び」の視点について、もう一度確認をしておきたいわ。



「対話的な学び」の視点について

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考えを手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

身に付けた知識や技能を定着させるとともに、物事の多面的で深い理解に至るためには、多様な表現を通じて、教職員と子供や、子供同士が対話し、それによって思考を広げ深めていくことが求められる。

中央教育審議会答申（平成28年12月）より

（※太字、下線等は加筆）

ここがポイント ～「対話的な学び」の実現に向けて～

- 対話の相手は子どもだけでなく、教職員、地域の人、先哲など幅広いものである。
- 自分と他者の意見や考え方を比較したり、自分だけでは気付くことが難しい気付きを得たりしながら、考えを広げたり深めたりできるようにする。

県総合教育センター『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善』（平成30年3月）より



活動が制限された中での対話だから、ねらいを明確にし、何のための話し合いなのか、何について話し合うのかなど、目的や内容を子どもたちと共有する必要がありますね。



「対話的な学び」の視点の充実に向けて

- 本質的なねらいを明確にしよう。（指導事項の確認を。）
- 子どもたちの目的意識や必要感等、話したい、聞きたい、伝え合いたいなどの思いを引き出す学習課題や問題、発問を考えよう。
（まずは、子どもたち一人一人が自分の考えを持てるように。）
- 子どもたちのやり取りを想定してみよう。
（発問や指示に対する子どもの反応を予想。）
- ねらいの実現状況を適切に評価し、授業改善へ生かそう。
（どのような支援や手立てを講じるとよいか考えよう。）
- カリキュラム・マネジメントを生かそう。
（「対話的な学び」の視点での授業改善における今後の見通しを。）

参考：R2下地区学校教育の重点「学習指導（目標と指導と評価の一体化）」

ねらいの実現状況を適切に評価しながら、どのような支援や手立てを講じることができそうかしら。



例えば…

予想どおりの反応が見られない。 ➡ 考えを持たせて、どう広げるかの手立て 等

資料提示 : 参考となる教科書やノートの見直し、ICT教材や既習掲示物の活用 など。

モデリング : 第三者の考えとして提示、思考を揺さぶる、あえて間違いを示す など。

考えを持たせ、広げるための補助発問 例



「これまでの考えで使えそうなことはあるかな。」
「〇〇さんの考えから参考にしたいところはどこかな。」
「〇〇さんの説明の続きを言えるかな。(書けるかな)」
「(教師のモデルを示しながら) これではだめかな。どうして？」 など

ある程度予想どおりの反応が見られる。 ➡ 考えをどう深めるかの手立て 等

思考のすべを使うための発問の工夫 : 比較、分類、関係付け、理由付け など。※

※参考 : 県総合教育センター「思考力・判断力・表現力を育む授業づくり」(平成27年3月)より

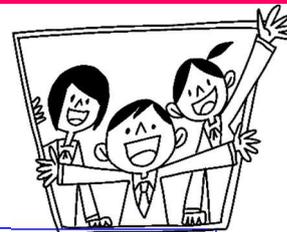
自分との対話(鉛筆対談) : 登場人物になりきる、会話をする など。

考えを深めるための補助発問 例



「〇〇さんが言ったことはどういうことかな。自分の言葉で書いてみよう。」
「AとBを比べてみよう。AとBの共通点(違い)は何かな。」
「出てきた考えを〇〇に注目して分けてみよう。」
「〇〇さん(登場人物や考案者等)と話をするように対話文(質問と答え)を書こう。」 など

「子どもをよく見て、受け止め、つないでいく」教師の関わりを大切に



感染症対策等により活動が制限されている状況下において、子どもの表情や様子に目を配り、小さなつぶやきにも耳を傾け、子どもの思いや考えに寄り添いながら子どもたちを受け止めるなど、よく見て関わっていくことがこれまで以上に重要となります。

今後も、「対話的な学び」の視点の充実を図りながら、子どもたちの学びを広げ深め、子どもたち全体へ、そしてこれからの学びへとつないでいきましょう。